

## 【第112回生涯教育講座】

# 島根発のユニークな予知予防研究をめざして

## — 島根大学疾病予知予防プロジェクトセンターの試み —

なび か とおる はま の つよし  
並 河 徹<sup>1)</sup> 濱 野 強<sup>2)</sup>

キーワード：生活習慣病，疫学研究，地域包括ケア，  
ソーシャル・キャピタル，GIS，加齢性疾患

### はじめに

日本では、これまでに経験したことのないスピードで高齢化が進んでおり、その中で医療や福祉をどのようにしていくのかが大きな課題となっている。島根県はすでに高齢化率が30%を越える「高齢化先進県」であり、中山間地域の人口減少と相まって、これからどのようにして住民の医療や福祉を守っていくのか、難しい課題の解決に取り組まなければならない状況にある。

われわれは「島根大学疾病予知予防プロジェクトセンター [The Center for Community-Based Health Research and Education (CoHRE)]」を立ち上げ、地域の健康調査データを基にした研究と住民の健康維持に資する活動を自治体と共同で実施している。近年、地理情報システム (GIS) による地理情報の解析やソーシャル・キャピタルの健康への影響を検討するなど、ほかの疫学的研究にはないユニークな取組を行っており、本稿では、その成果のいくつかを紹介したい。ま

た、これまでの CoHRE の活動で蓄積したノウハウやデータを基盤に、地域医療の最前線で働く医療従事者が自らのアイデアに基づいて行う研究をサポートする仕組みである Academic Knowledge Network (AKN) を昨年より起ち上げた。この仕組みについても紹介したい。

### 疾病予知予防プロジェクトセンター (CoHRE) の概要

2003年に島根医科大学と島根大学が統合した直後に、大学として独自の学際的プロジェクト研究を起ち上げることになり、その中のひとつとして、医学部と生物資源科学部の研究者が中心となって始めた中山間地研究がこのプロジェクトセンターの母体である。2006年に雲南市掛合町で初めての住民健康調査を実施して以来、雲南市、邑南町、隠岐の島町を中心に毎年健康調査を実施してきた。図1にそのビジョン、戦略を示す。

各自自治体で行っている特定健診に合わせて、受診者の中で研究参加に同意していただいた方には大学で用意した追加の検査や問診を実施するとともに血液サンプルを採取させていただいている。表1にこれまで実施した検査と受診人数を示しているが、すでに5000名を越える方の健診データ、

Toru NABIKA et al.

1) 島根大学医学部病態病理学講座

2) 同 戦略的研究推進センター疾病予知予防プロジェクトセンター  
連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部病態病理学講座